

福音宣教
社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

共に生きる

聖家族有志会報

No. 14

編集=瀬下幸弘 (FAX) 093-622-1290 mail: adoruck@axel.ocn.ne.jp

師走
12
2011

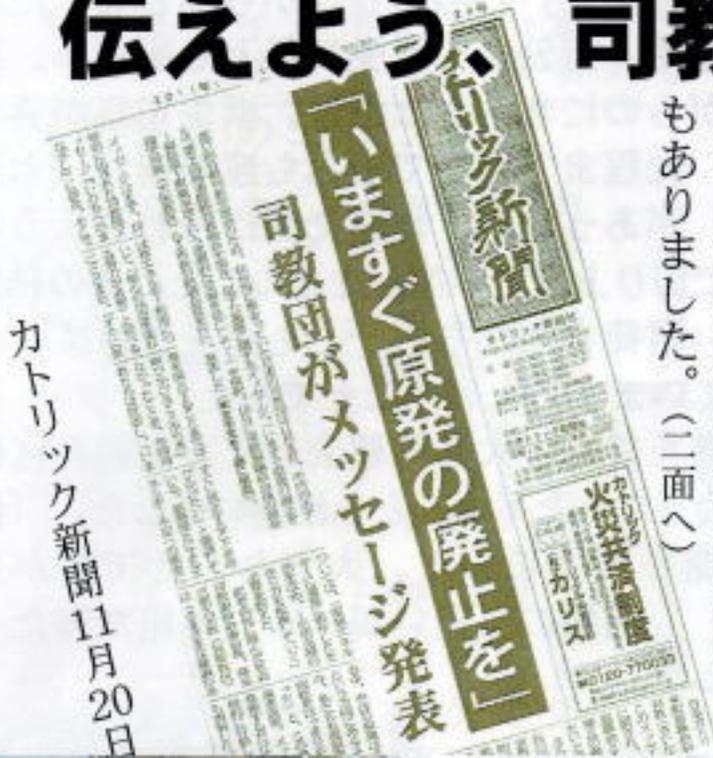
日本カトリック

伝えよう、司教団メッセージを

11月13日(日)舞鶴公園でメッセージを配布

いまずぐ原発の廃止を

日本カトリック司教団は、福島第一原発事故を受けて「日本にあ
るすべての原発をいまずぐに廃止することを呼びかけたい」と声明
を出しました。それに先立ち福岡県では「原発なくそう」の一点で
平和を共有する人々が福岡市舞鶴公園に集まり、「さよなら原発・
福岡集会」を企画していました。一万人の予定が一万五千人もの人々
で埋め尽くされた会場で、用意した司教団メッセージチラシ400
枚を5人のカトリック信徒で配布しました。チラシを受取った人の
中には「カトリック教会は平和
のことはすごく熱心ですね」
と声をかける人もいました。
また、会場では偶然の出会い
もありました。(二面へ)



カトリック新聞11月20日



修道者も市民も聖公会司祭も神父も信徒も
共に市内を平和行進しました。

お知らせ

- ◆12月4日(日) 教区信徒協(大名町)…13時30分
- ◆12月11日(日) 東日本震災被災者への募金呼びかけ
英語ミサと1品持ち寄り交流…15時
- ◆12月12日(月) 宣教部会(テレジア) …19時
- ◆12月17日(土) 小出裕章講演 真鶴会館 …14時
“原発はいらない” 6p詳細
- ◆12月18日(日) 年末募金活動 ミサ後呼びかけ
- ◆12月23日(金) ACO例会(テレジアの部屋) …9時

東日本大震災被災者支援

11月12,13日の募金額は
35,814円 でした。

CTIC外国人被災者支援センターに送金

好評です! 教区信徒協研修会記録集
信仰を掬や教義より、喜びをもって生きよう…

(1面続き)

会場を埋めた参加者



偶然の出会い

15,000人が舞鶴公園に。さてと腰を降ろし私達は司教団メッセージチラシを配り始めました。「こんにちわ、カトリック教会から原発即時廃止の声明が出ましたので読んで下さい。」と声を掛けながら配りました。メイン会場からはずれたところに30代位の女性が一人で座っていました。カトリック教会です、と声をかけチラシを手渡すと「私もカトリックです。」新聞を見て下関から高速バスで来たとのこと。そして小さな声で「教会にはほとんど行ったことがありません。」私は彼女に「今この場があなたの教会ですね。この集いで平和を願い共に行動することが私達の今日のミサですよ。せっかくですから一緒にチラシを配りませんか」と彼女を誘いました。彼女Tさんとの自己紹介もそこそこにリュックに詰めたチラシを一緒に配りました。Tさんにとって初めての経験ではなかったかと思います。途中、大名町の方、小倉や黒崎

すべての原発をいまずく廃止を(司教団メッセージ)

の信徒とも出会いました。が、私は下関細江教会の神父さんを探していたのです。こんな大勢の中で見つけだせるか心配でしたが、これまたパツパツ出逢いました。挨拶もそこそこに、Tさんを神父に引き合わせました。神父は彼女に「今度ぜひ来て下さい。細江教会よりも労働教育センターに…」その後、シスターたちとも合流し平和行進へ。「原発いらない」「電気は足りてる」「金より命」「世界を変えよう」と唱和しながら歩きました。行進途中、聖公会の浜生司祭とも出逢い、語りながらのにぎやかな行進。浜生司祭が言うには、先程まで教会で子ども達の祝い(七五三?)があったが、行進に間に合わせようと、途中で切り上げて参加したとのこと。その結果、“若い信徒さんたちも子ども達を連れて、今歩いています”ということでした。

行進を終え、大名町教会近くで以前教区信徒協会長だったYさんとも出逢いました。「僕も行進していました。大切なことですからね。」偶然の出逢いがいくつも重なった一日でした。



社会が激動している今この時 歴史に残る最大の悲劇は
 「悪しき人々」の過激な言葉や暴力ではなく
 「善良な人々」の沈黙と無関心である
 我々の世代が後世に恥ずべきは
 「暗闇の子」の言動ではなく
 「光の子」が抱く恐怖と無関心である
 (M.L.キング牧師)

北九州信徒協よりお知らせ

司祭の皆さんと信徒の皆さんと、共に懇談しませんか？

- と き/2012年1月8日(日)
14時45分~17時
- ところ/カトリック小倉教会
- テーマ/福音宣教について
- 参加/どなたでも

信徒協では、毎年「司祭団と信徒の懇談会」を開いており、今回で10回目となります。様々な時の話題を司祭のみなさんと信徒のみなさんが本音で語り合う場です。9月の教区研修会を北九州地区でも活かすために、テーマを福音宣教としました。あなたも、ご自分の体験など語ってみてはいかがでしょうか。参加ご希望の方は、濱までお知らせ下さい。

東日本大震災被災者支援関連ニュース

◆黒崎教会のバザー収益金 55,814円 }
11月12日、13日の募金 35,381円 }

外国人被災者支援センターCTICに送金致し、早速所長の大原神父様よりお手紙と領収書が届きました。掲示してありますので御覧下さい。いつも御協力有難うございます。

CTICこの1ヶ月の主な動き報告です。[Sr. 高木百世]

●掲示している大原神父様のお手紙には、感謝と共に今までの経過や福島の実樹園を営むある家族の苦しい状況が書かれています。CTICでは、11月末にも福島に行かれる予定です。

●11月初め、大船渡、気仙沼でクリスマスコンサートが行なわれました。
●陸前高田市にガレキ撤去等いろいろな必要のために、ボランティアを継続的に出し支援しておられます。



突然ですが、うれしいニュースです (ACO会員より)

林尚志神父様が出版します!!

『石が叫ぶ福音 —喪失と汚染の大地から—』

■体裁=四六判・上製・296頁
■定価 2,625円 (本体 2,500円 + 税5%)

【林神父からのメール紹介】

皆様；

実は岩波書店から、11月末に単行本「石が叫ぶ福音」が出る事に成りました。おそらく余り読まれないだろうと思います。内容もずい分前の文章ですが、岩波書店の編集の方から今でも有効だからと推されて前後に少し書き下ろしました。当然、謹贈とお届けしたいところですが、書店やネットでお求めくだされば、書店に出たりして他の人々にも目につくように成るかなと、ご厚意により頼みお知らせさせていただきます。ご無礼をお許し下さい。

ご注文は、山田弘までご連絡下さい。
携帯TEL 090-2585-4315

11/6~7 ACO黙想会



指導の
中井神父様

下関労働教育センターで行なわれました。細江教会から階段を昇りきった所にあり、下関タワーより高台にあります。関門海峡が一望出来る最高の場所です。一度来られてみてはどうでしょうか。

分かち合いのとき

11月27日

14名参加

虹の会

『荒れ野の体験』

「神様助けてください」

中井淳神父

2010年9月司祭叙階
2011年春から細江教会、
彦島教会で司牧、下関
労働教育センタースタッフ

冊子「福音宣教」12月号よりイエズス会司祭中井淳神父様の文章をもとに分かち合いました。

「マルコ福音書は洗礼者ヨハネの荒れ野での叫びから始まる、と改めて気づいた。」で文章は始まっています。参加された方からは、心の荒れ野の体験として、一人一人の挫折や痛みの体験、そしてその体験を通しての思いが分かち合われました。

荒れ野の体験によって人は成長するという思いに共感しました。

もう一つの荒れ野として、回りの環境や社会、

中でも震災や原発問題を通して感じる嘆きや憤りが分かち合われました。

「『砂の上の二組の足跡 一つは神様、そして一つは私 それで後で振り返ったとき、ところどころ足跡が一組しか見えなかった。』

私が最も苦しんでいたとき、神様が私を抱きかかえていたから」という詩を思い出します。」と分かち合われたのが印象的でした。

次回2012年1月22日です。

どなたでもご参加ください。

いま、カザフスタンでは

もうすぐ最終回ですね。私は、秋吉先生の最終回がとても待ち遠しく思っています。これまでの連載もそうですが、最終回は面白いです。連載の結論がそこに集約されてるようで、これを読めばこれまでのことが理解できますし、先生もそのあたりをお考えで書かれていると思います。そしてポイントは現在との接点を気づかせてくれることです。一般ニュースではわからないことが、教会で知れるのが魅力です。(F)

ケセン語訳聖書ってご存知ですか？

聖書をわかり易く、地元、気仙地方の言葉で翻訳した岩手県の内科医、山浦玄嗣さん講演のDVDを見る機会がありました。

ご自身も被災され、震災とどう向き合うか、のお話と、ケセン語聖書の話、気仙の方言とユーモアを交え、温かい語り口で語っていました。特に印象的だったのが、気仙衆(気仙の人々)は「どうして我々だけ、こんな酷い目に遭うのか!」とは、誰一人思っていない、と断言されたこと。地元の人にとって、地震も津波も必ず来る、40年に一度、人口の1~2割の人がいなくなる、そういう歴史を刻んできたんだ、そして、それは、神様がそういうふうにご造ったんだから、とも言っておられました。だからめげない。家族、友人を失って悲しいから泣く。けれど、それと恨みごととは違うと。誰が見ても絶望的な出来事を、前向きに生きていかれる姿に、山浦医師の祈りの姿勢を感じました。

聖書にある「祈り」という言葉は、ギリシャ語原典では、①賛美②感謝③願い事④プロセウコマイの4つで使い分けられているとのこと。聖書に出てくる「祈る」という言葉は、①②③はわずかで、ほとんどが④プロセウコマイなのだそうです。(イエスは祈るために山に登られた・という表記など)山浦医師は、与えられた自分の命の中で、神様の道具としてどれだけお役に立てるか、神様の声に心の耳を澄ませて聴く、これこそが「プロセウコマイ」。何をしたら神様に喜んでもらえるか、一生懸命、耳を澄ませて神様の「めんこい?」になりたいなあと、幼子のような笑顔で話していました。DVD見ませんか(子)

命日祭を無事終えました

と連絡が入りました。親類の方が、とってもよかったとおっしゃったそうです。最初は信者の皆さんと相談しながら、プログラムを組み立てたものの、ご家族の意見もあり二転三転されたとか。でも結果が好評で良かったですね。

ご家族や親類の中でカトリック信者がほとんどいなくても、聖書を読んだり教会音楽を聞かせるなどの工夫で、カトリック教会に触れていただけのことも、家庭で出来る福音宣教ではないだろうか、受話器の声を聞きながら私も多くを学びました。(S)

ツイッター

祭壇を叩く

以下の内容が、あるホームページに載ってました。

——11月27日主日ミサの出来事——

黒崎教会では今頃ですが「信仰宣言」から「使徒信条」に変えています。「使徒信条」を唱え始めた時、司祭は祭壇を叩いて信徒の唱えを制止し、「皆さん、もっとゆっくりいきましょう」と言って途中からゆっくりと再開しました。ミサ中に神聖な祭壇を叩く司祭なんて見たことも聞いたこともない!!

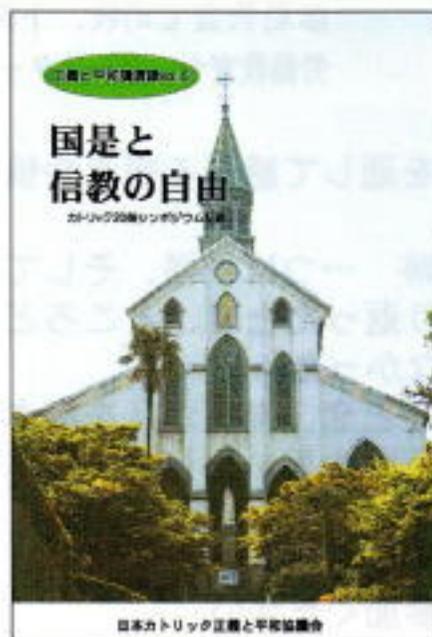
この方は、長崎教区の方だそうです。(K)

12月18日、年末募金にご協力を

毎年12月になると年末募金を行なっています。今年は12月17日(土)と18日(日)のミサ後に、黒崎教会で呼びかけます。ご協力よろしくようお願い致します。

黒崎教会のホームページが閉鎖

最近見てなかったもので、気づきませんでしたけど黒崎教会のホームページ内容が変更になっていました。そしてその理由も掲載されています。パソコンをお持ちの方は一度見て下さい。アドレスは <http://seikazoku.net/> です。(N)



読まれています

難しそうですが、とても易しい内容です。

「国是と信教の自由」ブックレット

北九州地域で既に150冊

(・溝部司教 ・谷 司教)
(・吉田牧師 ・森上牧師) 4人の語りと司教団声明を掲載

カトリックだけでなく、プロテスタント教会や他宗教の方も読んでいます。信仰者にとって必読本とも言えます。

お求め時は200円のカンパをお願いしています。瀬下まで FAX 093-622-1290

いま、カザフスタンでは ⑥

秋吉久紀夫

ハリムシャク詩集』の一節である。

もしも知らない人に貪婪に

物を要求するならば、

きつと人間の尊厳をも

失ってしまうはず。

身の上の輝かしい者ほど

はなはだ愚か者で、

ただ犬や熊のように叫ぶばかり。

人道上から見れば、

虚偽は永遠に道に背くことだ。

私利私欲は人に

善悪を分からなくさせ、

きつと人を塗炭の苦しみに陥れ、

生命をも保ちがたくするものだ。

十月革命前のカザフスタンの文学

芸術界で、多くの民族的英雄たちを

甲高い歌声で称えていた先の「アケ

ン」の代表的詩人として、特に傑出

していたのが、ジャブル・チャパ

エフ（1846～1945）である。彼ら

の生きていた時代は、ちょうどカザ

フスタンが帝政ロシアに呑み込まれ、

彼らの社会生活に思いもかけない変

化が惹起した時期であった。彼は自

分の詩歌と散文で正面から、この時

代の特徴を表現し不合理な社会の現実に批判を加え、カザフの人々は自立自衛し旧習を打破し、新しい生活に即応しなければと主張した。また彼は大量の異国の詩人の作品を翻訳し世界の先進文化をカザフの人々に紹介した。著名な彼の詩に「父へ捧げる詩」「皇帝の命令の束縛」等がある。

子どもたちは炭火がないから死んだと同じ、窓の外の吹雪はいつまでも吠えている。何処かの家に弱り果てた老人が居れば、この苦難の日をどんなに苛まれているか。豊かな家の天幕は幾重にも重なっていて、風や雪にも子どもは震えることはない。豊かな家の子どもは貧乏人の子どもを馬鹿し、貧乏人の子どもは悔しくても涙ぐむばかり。アバイに次いで詩人で作家そして学者としても名を成したのが、B・アイアーツォフ（1867～1960）である。彼には広大な気魂に溢れる長篇『アバイの路』があり、カザフ民族独特の風俗と歴史を反映している。独立後、経済的に困難な環境の中で文学作品を発表したのに、『ポタークツ』を書いたS・ムシャールノフ、『呼び覚まされた地区』を執筆したJ・ムスレーノフ、『血と汗』のA・ヌルピンソフ、『カラカンド』のJ・ムスタフなどがいる。その他詩人にオルジャス・スケイメノフや作家E・エセンピヤリン、A・カジルバエフなどがいる。参考文献 熱合曼主编『維吾爾文学史』他（次号へ）

羊の群れを追っている。

（5）

東日本大震災 ボランティア活動に参加して(2) (3回連続)

折尾地区 有吉 優里

【9月11日】 ちょうど震災から半年の日。14時26分にはサイレンが鳴るので、どんなに作業の途中でも手を止めて黙祷するように、という指示がありました。あともう少しということでもみんな集まっていたが、サイレンはなりませんでした。サイレンの鳴るスピーカーも、何もかも流されていたのです。宮司さんの声により、1分間黙祷しました。

【9月12日】 お昼ごはんはボランティアセンターのすぐそばにある「10円カフェ」に。立派な食事も10円で、宮城、岩手など現地で調達した食材でつくっているということでした。そこは岡山の居酒屋の方々が、ボランティアの人や被災地の方が食べられるように、と開いたカフェでした。いろいろなかたちで復興への力になることができるのですね。10円カフェのテーマは「人と生きる」でした。

午後は浜辺で打ち上げられたものを分別しました。最初は「このお茶碗どんな人が使っていたのかな」とか「この携帯なくした人は困っただろうな」と考えたり話したりしていましたが、次第に「ああ、これはこっち。それはあっち。」といったように事務的にやっていると自分に気づきました。なんだか分別をしていくうちに大事なものを失っていくようでこわくなりました。でも、いろいろ思いめぐらしては作業が進まない！と考える無心で作業をすすめました。

【9月13日】 朝、時間があつたのでベイサイドアリーナという施設の中を見ました。入り口にはたくさん紙が貼られています。今まで素通りしていましたが、よく見ると、遺体の特徴と、引き渡し済、などが確認された紙でした。特徴が詳しく書かれ、衣服を身につけていない人も多く、とても心が締め付けられました。



原発いらない講演会

講師／小出裕章さん 真鶴会館(小倉北区真鶴1-5-15)

12月17日(土) 午後2時～5時

参加費／1,000円 小出さんはカトリック教会が出している原発をとめようパンフの監修者です。

編集後記

「神様とか仏様とかおったらこんなひどいこと起こさんのやないかな？」震災被災地でボランティア活動中に青年が尋ねられたとのこと。(6p.下段)さて、私たちはこの疑問に対し分かりやすく答えられるでしょうか？“なるほど”と納得のいくものがありました。11月号で紹介した「山浦玄嗣氏の講演」です。聖書を地元の方言「ケセン語」に翻訳した方ですが、実にきっぱりと大震災と神との関係を語られています。震災での体験をもとに、感じたことをわかりやすく話す言葉は、私の中に深く刻み込まれました。そう言えば、10月にバプテスト教会で牧師の説教を1時間ちかく聞き、それが体験談でしたからズシンと心に響きました。ところで、ミサ説教が心に何も残らないのは私だけでしょうか。公文書にこうあります。「聞く人々の心を動かすためには、神の言葉を一般的抽象的に述べるだけでなく、福音の永遠の真理を具体的な生活環境にあてはめて説かなければならない」と。

読者の皆様、今年は大変お世話になり有難うございました。来年はホームページも開く予定です。(瀬下)

今日の作業は歌津駅前の広場のがれき撤去でした。重機はもちろん入った後でしたが、ボランティアが入るのは初めて、という場所、どこから手をつけていいか、そしてどこまで除けば地面が見えるのか…という思いの中活動しました。お昼は一緒に活動していたヤマト運輸のかた数人と一緒に食べました。どういう団体かと聞かれ、少しカトリックについて話しました。ヤマトの方が、「そいけどさ、おいちゃんたち無宗教やからよう分からんけど、神様とか仏様とかおつたらこんなひどいこと起こさんのやないかな？って思うわけよ」と言われました。以前、ある司教様が「神が私達に試練を与えるのではないのです。しんどいこと、苦しいことを背負っているとき、私達と共にその重荷を背負ってくれているのです。神が天災を引き起こすのではないのですよ」と言っておられたのを思い出しました。そして、きつとこの地に神様はいて、一緒に苦しんでくれているのだ…と、海を見ながら思いました。